



今年も明日への希望を胸に、多くの卒業生が旅立ち、また、入学の喜びと戸惑いを持ち、尚綱の門へと新入生が集いました。

平成17年度 卒園・卒業式 附属幼稚園・中学・高校 短大・大学

附属幼稚園：3月17日（金）、幼稚園遊戯室、110名
 中学：3月3日（金）、中学校5階ホール、30名
 高校：3月1日（水）高校体育館、301名
 短大・大学：3月15日（水）、熊本県立劇場、470名

平成18年度 入園・入学式 附属幼稚園・中学・高校 短大・大学

附属幼稚園：4月14日（金）、幼稚園遊戯室、104名
 中学・高校：4月10日（月）、高校体育館、高校271名、中学24名
 短大・大学：4月7日（金）、熊本県立劇場、504名



尚綱大学文化言語学部文化言語学科書道コース助教授

伊織洋一（蘇峰）先生 日展「特選」受賞

平成十七年十一月、東京都美術館で開催した「第三十七回日展五科『書』」全国から寄せられた三千三点もの作品の中から、伊織洋一先生の出品作品が見事「特選」を受賞しました。十歳ごろから書に親しんでこられた伊織先生、自分らしさを大切にしつつ、尊敬する王羲之の古典などに見られる品格も書の作品にとって重要であるとの考えのもと、三カ月にわたって今回の作品に取り組みました。今年二月には先生の栄誉を祝う祝賀会を開催。熊本県文化協会、熊本県書道連盟などの方々をお迎えして盛大に催されました。さらに、五月三十日には熊本県文化懇話会、文化協会総会で第四十一回熊本県文化懇話会新人賞を受賞されました。



伊織洋一（蘇峰）先生
 昭和31年6月21日、熊本県出身。奈良教育大学専攻科修了。
 日展会友、読売書法会理事、日本書院評議員、
 長興会理事。受賞歴/日展入選12回



第三十七回日展五科「書」部門
 特選「杜牧詩」
 最も意識したのは潤濁、線の伸びに影響する墨の濃さ。木簡のおおらかさを失わない字形、余白を含めた全体構成にも配慮しています。素材さ、柔らかさ、切れ味を意識した線質でいきいきとした作品をめざしました。

高等学校 1・2年生参加の 金峰山登山大会 開催

3月10日、前夜の雨も上がり、二の丸公園を元気よくスタート。黙々と歩く班もあれば、おしゃべりと笑い声の絶えない班あり、大将陣よりいよいよ頂上を目指す。猿すべりをあえぎあえぎ登る。班のメンバーもばらけ「きつい!」「まだですか!」の声が聞こえる。胸突き八丁を何とか頑張り最後の階段を切り切るとへたり込む者も多数。頂上での楽しい昼食後復路へ。4時10分までには約16kmを完歩し、全員ゴール。お疲れさん。交通指導にあたっていただいた保護者の方に感謝致します。



明治のオルガン



平成八年八月二十日、鹿本郡植木町在住の遠山祥一郎さんから校史資料室で保管しているオルガンを見学したいという手紙をいただきました。遠山さんは、オルガン奏者として活動するかたわら、十九世紀のオルガン音楽への興味からリードオルガンの研究者でもありました。本校では、平成五年から校史資料室で四台のオルガンを保管してまいりました。遠山さんは、故尚綱短期大学谷脇敬二教授（美術）をはじめ、同窓会関係者からこの情報

をもらったそうです。同月二十七日、遠山さんが来校され、オルガンを調査されました。その結果、二台が明治時代後期、二台が大正時代のものであることが判明しました。明治時代後期の二台は、ヤマハ（本社 静岡県浜松市）製造の楽器でした。翌日、遠山さんから連絡が入り、製造番号から明治四十年、四十一年ごろの製造であることが確認されました。国産のリードオルガンは明治二十三年頃から製造が始まりました。しかし、古い楽器は



関東大震災などで、ほとんど残っていません。本校では、このオルガンを昭和二十五年ごろまで音楽の授業などに使っていました。また、電気がなかった時代の名残で、楽譜を見るための蠟燭を立てる燭台が鍵盤の両端についていました。九州の記念館などで公開中のオルガンでは最古のものでした。熊本市では平成八年十月二十四（三十日）に熊本岩田屋（現熊本阪神アパート）で第九回県民文化祭「熊本市「明治は語る」が開催されました。遠山さんは、この企画に参画していたので、早速その資料発掘に当たっていた健康文化ホールに連絡が行きました。館長の武藤暉彦さんが二度にわたって来校され、校史資料室を見学されました。その後、武藤さんから尚綱高校

に明治時代のオルガンが保管されていることをマスコミに公表してよいかという問い合わせがありました。公表することになりました。同年十月五日付け、熊日新聞でも紹介されました。本校では、目録を作り、校史資料室で保管しています。現在、このオルガンは十年たった今日でも音は弱くなりましたが、音色を聴くことができます。今後も尚綱の「宝」として、大切に保存してゆきたいと思っています。

せがあり、公表することになりました。当時、九州のテレビ局が協力して、「We Love九州」というテレビ番組（三十分）を製作していました。テレビ熊本（TKU）では、遠山さんの活動を中心に「大合唱 よみがえったオルガンの音」というタイトルの番組を作りました。この中で、本校保管のオルガンが紹介されました。この番組を見ておられた方々から相当の反響がありました。また、県民文化祭にも出品の依頼があり、「制服を着た人形五点」、「明治の教科書 十点」（馬原文庫）「明治時代のオルガン二台」が本校から提出され、展示されました。ちなみに、「馬原文庫」とは、本校を明治時代に卒業された馬原とくさんが生前使用されていた教科書を、平成三年七月に熊本市川尻在住の馬原カミエさんが寄贈されたものです。同年十月五日付け、熊日新聞でも紹介されました。本校では、目録を作り、校史資料室で保管しています。現在、このオルガンは十年たった今日でも音は弱くなりましたが、音色を聴くことができます。今後も尚綱の「宝」として、大切に保存してゆきたいと思っています。